

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第十八主日礼拝

2020年10月4日

前奏：

招きのことば：詩編 27:1-3

主はわたしの光、わたしの救い | わたしは誰を恐れよう。
主はわたしの命の砦 | わたしは誰の前におののくことがあろう。
さいなむ者が迫り | わたしの肉を食い尽くそうとするが
わたしを苦しめるその敵こそ、かえって | よろめき倒れるであろう。
彼らがわたしに対して陣を敷いても | わたしの心は恐れない。
わたしに向かって戦いを挑んで来ても | わたしには確信がある。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡していただきました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたは私たちの罪を赦すために、独り子のイエス様を遣わしてくださいました。あなたの支配を拒み、むしろあなたを利用し、できれば自分の思い通りに世界を動かしていきたいがしこい私たちに、惜しみなく愛を注ぎ、神様のもとに帰ることができるように、イエス様をお送りくださいました。今日もイエス様のみ言葉を聞き、イエス様の聖餐にあずかります。イエス様は十字架の死によって私たちの罪の正しい裁きをすべて担い、そして復活して私たちに豊かな実を結ぶ新しい心を与えてくださいます。私たちはここから人々の間に遣わされていきます。どうか、イエス様に愛されている者として、神様と人々に役立つ歩みをさせてください。私たちはもともと心配りのたりない自分中心で未熟なものです。どうぞ教会の土台であるイエス様が、私たちを導いてください。愛し合い、高めあっていく交わりとしてお育てください。新型コロナウイルス・ウィルスの感染拡大を防ぐべく緊張感を保ちながら、私たちは新しい生活を立てあげようとしています。今朝もあなたのみ言葉によって私たちをカづけてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：フィリピ 3章 4b-14 節

だれかまかに、肉に頼れると思う人がいるなら、わたしはなおさらのことです。わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。わたしは、キリストとその復活の力とを知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、何とかして死者の中からの復活に達したいのです。

わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。兄弟たち、わたし自身は既に捕らえたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。

福音書朗読：マタイによる福音書 21章 33-46 節

「もう一つのたとえを聞きなさい。ある家の主人がぶどう園を作り、垣を巡らし、その中に搾り場を掘り、見張りのやぐらを立て、これを農夫たちに貸して旅に出た。さて、収穫の 때가近

づいたとき、収穫を受け取るために、僕たちを農夫たちのところへ送った。だが、農夫たちはこの僕たちを捕まえ、一人を袋だたきにし、一人を殺し、一人を石で打ち殺した。また、他の僕たちを前よりも多く送ったが、農夫たちは同じ目に遭わせた。そこで最後に、『わたしの息子なら敬ってくれるだろう』と言って、主人は自分の息子を送った。農夫たちは、その息子を見て話し合った。『これは跡取りだ。さあ、殺して、彼の相続財産を我々のものにしよう。』そして、息子捕まえ、ぶどう園の外にほうり出して殺してしまった。さて、ぶどう園の主人が帰って来たら、この農夫たちをどうするだろうか。」彼らは言った。「その悪人どもをひどい目に遭わせて殺し、ぶどう園は、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに貸すにちがいない。」イエスは言われた。「聖書にこう書いてあるのを、まだ読んだことがないのか。

『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。

これは、主がなさったことで、わたしたちの目には不思議に見える。』

だから、言うておくが、神の国はあなたたちから取り上げられ、それにふさわしい実を結ぶ民族に与えられる。この石の上に落ちる者は打ち砕かれ、この石がだれかの上に落ちれば、その人は押しつぶされてしまう。」

祭司長たちやファリサイ派の人々はこのたとえを聞いて、イエスが自分たちのことを言うておられると気づき、イエスを捕らえようとしたが、群衆を恐れた。群衆はイエスを預言者だと思っていたからである。

讚美歌 242 番

1. 「悩む者よ 我に来よ」と、恵みの主は 招きたもう。
重荷負いて あえぐ友よ、主のみもとに 来たり いこえ。
2. 「悩む者よ 我に来よ」と、ひかりの主は 招きたもう。
暗き道に 迷う友よ、主のみもとに 急ぎ 帰れ。
3. 「悩む者よ 我に来よ」と、すくいの主は 招きたもう。
罪を悔いて なげく友よ、主のゆるしの みこえ 聞けや。 アーメン

説教：「隅の親石となった」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

ひどい農夫たちのお話です。葡萄園を任され、収穫のときに主人から送られて来るしもべたちを次々に殺害して、ついに彼らを信頼して仲直りの使者として送られてきた主人の息子も、これを殺したら葡萄園どころか主人の財産も自分たちのものにできると欲張って、葡萄園の外へ放り出して殺してしまいました。

イエス様は聞いていたユダヤ人の指導者たちに、葡萄園の主人はこの農夫たちをどうするだろうか、と尋ねました。皆さんならどうお答えになりますか。彼らは正義感に燃えて、おそらく自分を主人と重ねて考えて、そんな悪人はひどい目にあわせるだろう、またこれにこりて葡萄園は別の、もっとまじめな人に貸すことになるだろう、と答えました。それにしてもひどい農夫たちですね。

イエス様はなぜこんなたとえ話をなさったのでしょうか。それは神様の独り子であるイエス様を、民をまどわし、神様を冒瀆するものだと責めて、十字架で殺そうとしているユダヤ人の指導者たちに、自分たちの姿に気付いてもらうためでした。イスラエルの民は神様から愛されて、救い主が来ることをしっかりと証しし、待ち望む使命が与えられていました。神様ではなくつよい隣国に頼ろうとしたり、神様を無視して自分勝手な歩みをしたときは、神様は預言者を送って神様のことばを託しました。何度もそんなことがありました。それでもイスラエルの民を見捨てず、ついに、神様は独り子のイエス様を救い主として送りました。けれども民の指導者たちはイエス様を認めないで、むしろ殺そうとしていたのです。

私たちはどうでしょうか。神様がすべてを造り、神様がすべてを動かしておられます。葡萄園の主人が、いのししから守るためにまわりに垣根をめぐらし、どろぼうから守るために見張り台を建て、収穫した葡萄の実を搾ることができるように搾り場を整えてくださったように、私たちも神様からいろいろな守りと支えをいただいています。そこで私たちはそれぞれ人々の役に立つように、与えられた立場や能力や人とのつながりを生かして歩むためです。けれども、私たちは悲しいほど自分中心です。神様に愛されて信頼されていることをどうしても信じていることができないで、自分を守ろうとします。また、自分のことを軽く見たり無視したりして、自分の心を踏みにじる人がいたら、赦すことができません。神様は私たちが神様の子どもとして、安心して、与えられた命を感謝して、神様を賛美しながら、毎日喜びをもって自分の分を果たす満ち足りた歩みができるようにしてくださっているのに、私たちは不信感のかたまりなのです。傷つきやすく未熟なのに、プライドだけは高いのです。そして、時として、自分が働いて得たものを誰からも奪われぬために、どんなことでもするのです。農夫たちに似ていますね。

神様は罪のために身動きできなくなっている私たちのために、愛をもって忍耐深く働きかけてくださいます。そしてついに愛する独り子、イエス様を私たちのために遣わしてくださいました。でも農夫たちが主人の息子を殺したら主人の財産も自分のものにできるとさえ思って殺してしまったように、祭司長たちやファイサイ派の人々というイスラエルの指導者たちはイエス様を目障りだということで、このあと実際に都エルサレムの外で十字架にかけて殺してしまいました。神様の忍耐と愛は、彼らによって極みまで踏みにじられ、むしろ、自分が神様のように民の信頼と人気を保ちたいと考えていました。私たちもイエス様に祈るとき、自分の願いをかなえてくださることだけ考えています。そして自分が神様の信頼を受けて神様の葡萄

園で働かせていただいていることを全く忘れています。自分の人生は自分で守らなければならない、そのために神様のちからもいただいて、何とか幸せに乗り切っていきたいと、深いところで思い違いをしています。

イエス様は詩編 118 編 22 節からのみ言葉と、イザヤ書 28 章 16 節からのみ言葉を引用して、家を建てる者がいない、と捨てた石が、家全体を支える要の石、隅の親石となった、これは主がなさったことである、と言われました。イエス様は人々から捨てられて、十字架につけられました。しかし主はこれを、イエス様を捨てた人々の罪の償いとしてくださいました。そしてイエス様はよみがえって、私たちのいのちを支える土台としてくださいました。よみがえったイエス様は、十字架の死が私たちの罪を赦すためだったことの確証です。

私たちは罪びとです。神様に不信感をもち、人々に不信感をもっています。神様を愛さず、人々を愛しません。私たちはいつも何か未知のものを恐れ、不安です。身を守ります。そのためには攻撃さえもするのです。そんな私たちに、神様は忍耐と愛をもって救い主イエス様を送ってくださいました。神様は正義のかたです。常識的には罪びとを裁くまことに恐ろしい方だと予想します。しかし、神様は、私たちが思うところではなく、私たちの予想とは違う方です。イエス様は私たちに捨てられてくださるほど、私たちを大切に愛してくださっています。神様は、私たちのために死の苦しみを味わってくださったイエス様によって赦すかたとして私たちに近づいてくださいました。

私たちの常識からいうと、ひどい農夫を懲らしめることが正義です。しかし、神様はイエス様によって、このひどい農夫のような私たちを、義としてくださるのです。私たちがかたくなな心はイエス様によって赦されます。それは、神様の愛を信じて、人々を愛して歩む、復活のいのちにあずかるためでした。それは、試練の中でも慰めをいただき、神様の子どもとして、豊かな実を結んで歩むためでした。そしてこれは主がしてくださることなのです。

あなたの罪はイエス様によって赦されました。そして、安心して人々の間に遣わされていきます。今朝は聖餐の恵みをいただきます。よみがえって今もここにおられるイエス様が、罪を赦すために流されたご自分の血と、裂かれたご自分のからだを、私たちに与えてくださいます。これほど大きな安心と、大きな喜びがほかにあるでしょうか。おそろおそろいただくなくても、み言葉の約束ですから深い愛に安心して身を任せていきましょう。自分の人生をまもるという気持ちから、すべてを神様に信頼して明け渡し、神様の御心に安心して従っていく一週間が始まります。あなたの残る生涯は、神様の御手のなかで、実を結ぶものとなるのです。さあ、どうやって人々の役に立っていきましょうか。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあつて我らはひとつ。

＜繰り返し＞ マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い、主の復活をたたえ、主のみ国を待ち望み、主にあつて我らは生きる。

＜繰り返し＞

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出されたまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン。

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。アーメン」

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

赦しの宣言

主イエス・キリストのまことのからだ、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠のいのちにいらさせていただきます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。

アーメン

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え、主の御言葉に従い、愛の息吹に満たされ、主にあつて我らは歩む。

＜繰り返し＞ マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

讚美歌 301 番 献金 献金感謝の祈り

1. 山べにむかいてわれ 目をあぐ、助けはいずかたより きたるか、
あめつちのみかみより 助けぞ われにきたる。
2. **み神は汝（なれ）の足を 強くす、み守りあれば汝（なれ）は 動かじ、
み民をば守るもの まどろみ 眠りまさじ。**
3. み神はあだをふせぐ たてなり、汝（な）が身をつねに守る かげなり、
よるは月、ひるは日も 汝（なれ）をば そこなうまじ。
4. **み神はわざわざいをも さけしめ 疲れしたましいをも やすます。
出ずるおり、入るおりも、たえせず 汝（なれ）を守らん。 アーメン**

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神に、ときわに 絶えせず み栄えあれ、み栄えあれ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏